



| 散布日 | 散布時期 定植からの日数 | 散布薬剤 (水 100 当り) | 濃度 | 散布量 1 a 当り | 発生病害虫 | 注意事項 |
|-----|-------------------------|--------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------|---------------|-----------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| / | 直後 | ①オルトラン粒剤 | - | 600 g | アブラムシ類 ヨトウムシ類 アザミウマ類 | ①カブラヤガ等ネキリムシ類は、朝夕の涼しい時が捕殺しやすい。地際から倒れて立枯症状の株は同心円状に掘り確認する。 |
| / | 直後 | ①展着剤 ハイテンパワー (1ml) オーソサイド水和剤 80 (16.6 g) | 10,000 倍 600 倍 | 300 | 立枯病 | ①地表面にもたつぷりと散布を行う。 |
| / | 20 日後 生育期 | ②オンコル粒剤 5 | - | 600g | アザミウマ類、(ミカンキイロアザミウマ)、(コガネムシ類) | ①吸汁によるウイルス病発生に注意する。 ②立枯病予防としてリゾレックス水和剤 1,000 倍を株元に散布してもよい。 ③排水性を整え根腐病予防の対策を行う。 |
| / | 40 日後 抽苔期 | ③展着剤 ハイテンパワー (1ml) トップジンM水和剤 (6.6g) オルトラン水和剤 (10g) | 10,000 倍 1,500 倍 1,000 倍 | 200 | 菌核病、(灰色かび病) アブラムシ類、アザミウマ類、 ヨトウムシ類 | ①トップジンM水和剤は、地表面にもたつぷり散布し、立枯病の発生を抑制する。 ②抽苔期は、ウイルス症状が発生しやすいためアブラムシ類、アザミウマ類の予防に努める。 |
| / | 55 日後 生育期 | ④展着剤 ハイテンパワー (1ml) トレボン乳剤 (10ml) | 10,000 倍 1,000 倍 | 200 | ハスモンヨトウ、(アザミウマ類、コナジラミ類) | ①トレボン乳剤は、速効性、残効性に優れた広範囲の害虫に効果がある。 |
| / | 55 日後 | ④ユニフォーム粒剤 | | 1.8kg | 立枯病、(疫病) | ①ユニフォーム粒剤は立枯病予防として株元に散布する。 |
| / | 70 日後 生育期 | ⑤展着剤 ハイテンパワー (1ml) オーソサイド水和剤 80 (16.6g) ノーモルト乳剤 (5ml) アルバリン顆粒水溶剤 (5g) | 10,000 倍 600 倍 2,000 倍 2,000 倍 | 300 | アブラムシ類、コナジラミ類、 ハモグリバエ類、(アザミウマ類、 ヨトウムシ類、(コナガ) 立枯病 | ①ノーモルト乳剤は耐雨性(水による低下の心配がない)、残効性に優れているが、効果は遅効的のため害虫発生園はプレオフロアブル1,000倍を使用する。 ②オーソサイド水和剤80は地際にも散布 |
| / | 85 日後 生育期 | ⑥展着剤 ブレイクスルー (1ml) トップジンM水和剤 (6.6g) オルトラン水和剤 (10g) | 10,000 倍 1,500 倍 1,000 倍 | 300 | 茎腐病 アザミウマ類、アブラムシ類 ヨトウムシ類 | ①トップジンM水和剤は地際にも散布 ②予防的防除が非常に重要です。 ③降雨後は、換気を行い灰色かび病の発生を耕種的防除を行う。 |
| / | 95~100 日後 出蕾期 | ⑦展着剤 ブレイクスルー (1ml) アフェットフロアブル (5ml) ディアナSC (2ml) | 10,000 倍 2,000 倍 5,000 倍 | 300 | 灰色かび病、 オオタバコガ、アザミウマ類 (ハスモンヨトウ、シロイチモジ ヨトウ) | ①アフェットフロアブルは予防効果に優れる。 ②出蕾期は特に病害虫に注意し、必要な場合は特別散布を行う。 ③ディアナSCは、オオタバコガ、ヨトウムシ類の卵、幼虫各ステージに効果が期待できる。 |
| / | 110 日後 生育期 | ⑧展着剤 ブレイクスルー (1ml) コテツフロアブル (5ml) | 10,000 倍 2,000 倍 | 300 | ハスモンヨトウ、アザミウマ類、 ハダニ類 | ①コテツフロアブルは、植物体への浸透移行性がないためかき残しのないように葉の表裏に十分に散布する。 |
| / | 120 日後 開花期 | ⑨展着剤 ブレイクスルー (1ml) ポリオキシソールAL水溶剤 (4g) プレオフロアブル (10ml) | 10,000 倍 2,500 倍 1,000 倍 | 300 | 灰色かび病、ハダニ類 オオタバコガ、(ミナミキイロアザミウマ、ハスモンヨトウ) | ①コナジラミ類発生園はコルト顆粒水和剤4,000倍を加用する。 ②高温時は薬害になりやすいため涼しい時間帯に防除して下さい。 |
| / | 130 ~ 140 日後 収穫直前 | ⑩展着剤 ブレイクスルー (1ml) フルピカフロアブル (5ml) コテツフロアブル (5ml) | 10,000 倍 2,000 倍 2,000 倍 | 300 | 灰色かび病 オオタバコガ、アザミウマ類、 ハモグリバエ類 | ①薬害予防のため夕方散布を実施する。 |
| / | 収穫中 | ⑪展着剤 ブレイクスルー (1ml) アフェットフロアブル (5ml) トレボン乳剤 (10ml) | 10,000 倍 2,000 倍 1,000 倍 | 300 | 灰色かび病 ハスモンヨトウ、(アザミウマ類、 コナジラミ類) | ①収穫中も薬剤散布は必ず行い、「病害虫発生ゼロ」を目指す。 |

* 定植からの日数は、定植する時期により異なるため生育期を目安に散布する。また、灰色かび病は梅雨期及び7月上旬に発生が見られるので、変動的に散布に努める。

* オオタバコガ発生状況は、7月上旬、7月中旬、8月上旬、9月上旬のため例年多発する園地は事前の防除を心がける。

* アザミウマ類、ハダニ類、コナジラミ類は、発生初期から特別防除を行い、多発しないように努める。誘引粘着シートを設置し発生予察する。「ピタットトルシー」捕獲用 10a 200 枚 (3m に 1 枚の目安)、予察用 10 枚

* 混和順 水 → 展着剤 → 液剤 → 乳剤 → 水溶剤 → フロアブル剤 → 水和剤

※事前によく溶かして使用しましょう

当防除暦の複製・コピーの禁止

トルコギキョウ農薬使用基準

| | 薬剤名 | 薬剤系統 | 発生病害虫名 | 希釈倍率 | 使用回数 |
|----------|---------------|--------------------------------|------------------------------------|-----------------|---------------|
| 殺菌剤 | オーソサイド水和剤 80 | キャプタン系 | 立枯病、茎腐病、苗立枯病 | 600 倍 | 8 回以内 |
| | リゾレックス水和剤 | 有機リン系トルクロホスメチル | 立枯病（リゾクトニア菌）、株腐病、白絹病 | 500 倍～1,000 倍 | 5 回以内 |
| | ユニフォーム粒剤 | アズキシストロビン、メタラキシル | 立枯病、(疫病) | 18kg/10a | 3 回以内 |
| | ゲッター水和剤 | ベンズイミダゾール系 | 灰色かび病 | 1,000 倍 | 5 回以内 |
| | トップジン M 水和剤 | ベンズイミダゾール系 | 菌核病、(灰色かび病)、(うどんこ病) | 1,500 倍 | 5 回以内 |
| | ポリオキシ AL 水溶剤 | ポリオキシ剤 | 灰色かび病、うどんこ病、黒斑病、ハダニ類 | 2,500 倍 | 8 回以内 |
| | フルピカフロアブル | メパニピリム | 灰色かび病、(うどんこ病) | 2,000 倍～3,000 倍 | 5 回以内 |
| | アフェットフロアブル | ペンチオピラド | 灰色かび病、(うどんこ病)、(さび病) | 2,000 倍 | 3 回以内 |
| | トレノックスフロアブル | チウラム(ジチオカーバメート系) | 灰色かび病、(褐斑病、炭素病) | 500 倍 | 6 回以内 |
| 殺虫剤 | ロムダンフロアブル | I GR 系(脱皮促進剤) | シロイチモジヨトウ、ハスモンヨトウ | 1,000 倍 | 5 回以内 |
| | ノーモルト乳剤 | I GR 系(キチン合成阻害) | ヨトウムシ類、(コナガ)、(ハスモンヨトウ) | 2,000 倍 | 2 回以内 |
| | オンコル粒剤 5 | カーバメイト系 | アザミウマ類(ミカンキイロ)、(コガネムシ類) | 6kg/10a | 3 回以内 |
| | Ⓔ アドマイヤーフロアブル | ネオニコチノイド系 | アブラムシ類、(アザミウマ類) | 2,000 倍 | 5 回以内 |
| | Ⓔ モスピラン顆粒水溶剤 | ネオニコチノイド系 | アブラムシ類 | 4,000 倍 | 5 回以内 |
| | アルバリン顆粒水溶剤 | ネオニコチノイド系 | アブラムシ類 コナジラミ類、(カメムシ類) | 2,000 倍～3,000 倍 | 5 回以内 |
| | | | ハモグリバエ類 | 1,000 倍 | |
| | アクタラ顆粒水溶剤 | ネオニコチノイド系 | ミカンキイロアザミウマ | 1,000 倍 | 6 回以内 |
| | | | ハモグリバエ類、コナジラミ類 | 2,000 倍 | |
| | アディオンフロアブル | ピレスロイド系 | ヒラズハナアザミウマ、(ヨトウムシ類) | 1,500 倍 | 6 回以内 |
| | Ⓔ スカウトフロアブル | ピレスロイド系 | アブラムシ類、アザミウマ類、(ヨトウムシ類) | 2,000 倍～3,000 倍 | 5 回以内 |
| | Ⓔ テルスターフロアブル | ピレスロイド系 | ヒラズハナアザミウマ、(ハダニ類)、(カメムシ類)、(アブラムシ類) | 4,000 倍 | 3 回以内 |
| | トレボン乳剤 | ピレスロイド系 | ハスモンヨトウ、(チャノキイロアザミウマ)、(アブラムシ類) | 1,000 倍 | 6 回以内 |
| | ダニトロンフロアブル | フェノキシピラゾール系 | ハダニ類 | 1,000 倍～2,000 倍 | 6 回以内 |
| | アフーム乳剤 | マクロライド系 | ハモグリバエ類・オオタバコガ・ヨトウムシ類、ミカンキイロアザミウマ | 1,000 倍 | 5 回以内 |
| | プレオフロアブル | ピリダリル | オオタバコガ | 1,000 倍 | 4 回以内 |
| | Ⓔ コテツフロアブル | ピロール系(呼吸阻害剤) | ヨトウムシ類・ミカンキイロアザミウマ、ハダニ類 | 2,000 倍 | 2 回以内 |
| | オルトラン粒剤 | 有機リン系 | アザミウマ類、アブラムシ類、ヨトウムシ類、アオムシ | 3～6kg/10a | 合わせて 5 回以内 |
| | オルトラン水和剤 | | | 1,000 倍 | |
| スミチオン乳剤 | 有機リン系 | アザミウマ類、(アブラムシ類)、ハマキムシ類 | 1,000 倍 | 6 回以内 | |
| コルト顆粒水和剤 | ピルフルキナゾン | コナジラミ類、アブラムシ類、(チャノキイロアザミウマ) | 4,000 倍 | 4 回以内 | |
| ディアナ SC | スピノシン系 | オオタバコガ、アザミウマ類、ハモグリバエ類、(コナジラミ類) | 2,500 倍～5,000 倍 | 2 回以内 | |

病害虫発生前の早期防除に取り組み、安全・安心な農産物生産しましょう。

当防除暦の複製・コピーの禁止